

令和5年度 指定管理者年度評価シート

1 公の施設の基本情報

施設名称	千葉市中央いきいきプラザ 千葉市花見川いきいきプラザ 千葉市稲毛いきいきプラザ 千葉市若葉いきいきプラザ 千葉市緑いきいきプラザ 千葉市美浜いきいきプラザ	千葉市蘇我いきいきセンター 千葉市花見川いきいきセンター 千葉市さつきが丘いきいきセンター 千葉市あやめ台いきいきセンター 千葉市大宮いきいきセンター 千葉市都賀いきいきセンター 千葉市越智いきいきセンター 千葉市土気いきいきセンター 千葉市真砂いきいきセンター
条例上の設置目的	●千葉市老人福祉センター設置管理条例(昭和59年千葉市条例第20号)第1条で設置する老人福祉センター ●千葉市いきいきセンター設置管理条例(平成14年千葉市条例第14号)第1条で設置するいきいきセンター	
ビジョン (施設の目的・目指すべき方向性)	●高齢者の健康の増進、教養の向上、世代間交流等の機会を提供することにより、高齢者が健康で生きがいのある生活が送ることができる地域社会を構築していく。このことを通じて、高齢者ができる限り住み慣れた地域で自立した生活が送れるよう、介護予防分野において支援を行う。	
ミッション (施設の社会的使命や役割)	●高齢者が学習意欲を発揮し、地域社会への参画意識を持てるような機会を提供していく。 ●高齢者の健康づくりや介護予防の場を提供していく。	
制度導入により見込まれる効果	市民サービスの向上により、さらに多くの高齢者に施設を利用してもらう	
成果指標※	① 施設利用者数 ② 利用者アンケートによる利用者満足度	
数値目標※	① 令和元年度利用者数を基準とし、千葉市の高齢者人口の伸び率を乗じた人数以上 ② 満足度80%以上	
新型コロナウイルスの影響	●令和4年6月10日まで部屋の定員を半分にして各種事業を実施。 ●カラオケ・合唱・スポーツ吹矢は、令和5年3月13日までの間を利用制限。	
所管課	保健福祉局高齢障害部高齢福祉課	

2 指定管理者の基本情報

指定管理者名	社会福祉法人 千葉市社会福祉協議会（旧：千葉市社会福祉事業団）
構成団体（共同事業体の場合）	
主たる事業所の所在地	千葉市中央区千葉寺町1208番地2
指定期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日（5年）
選定方法	非公募
非公募理由	平成23年度に実施した外郭団体の事務事業の見直しの結果を踏まえ、いきいきプラザ及びいきいきセンターのような安定的なサービス供給が求められる施設の指定管理については、公募によらない方法により、外郭団体に行わせるべきサービスとして整理され、平成24年度に各条例を改正し、公募によらない方法により指定管理を行うこととなった。
管理運営費の財源	指定管理料

3 管理運営の成果・実績

(1) 施設利用者数

施設名	数値目標（※1）	R 5年度実績	達成率	評価
千葉市中央いきいきプラザ	58,661人	35,649人	60.8%	D
千葉市花見川いきいきプラザ	69,177人	56,576人	81.8%	D
千葉市稲毛いきいきプラザ	70,013人	64,039人	91.5%	C
千葉市若葉いきいきプラザ	83,064人	60,791人	73.2%	D
千葉市緑いきいきプラザ	66,448人	52,511人	79.0%	D
千葉市美浜いきいきプラザ	119,272人	78,523人	65.8%	D
千葉市蘇我いきいきセンター	22,357人	19,463人	87.1%	C
千葉市花見川いきいきセンター	32,249人	21,095人	65.4%	D
千葉市さつさが丘いきいきセンター	19,544人	18,706人	95.7%	C
千葉市あやめ台いきいきセンター	20,596人	22,860人	111.0%	B
千葉市大宮いきいきセンター	10,493人	15,621人	148.9%	A
千葉市都賀いきいきセンター	23,206人	16,826人	72.5%	D
千葉市越智いきいきセンター	12,766人	12,062人	94.5%	C
千葉市土気いきいきセンター	20,253人	13,158人	65.0%	D
千葉市真砂いきいきセンター	18,931人	15,024人	79.4%	D
合計	647,030人	502,904人	77.7%	D

※1 R6年3月末60歳以上人口314,258人÷R1年3月末全市60歳以上人口300,871人＝104.4%
各施設R1年度実績×104.4%＝数値目標

(2) 利用者アンケートによる満足度

施設名	数値目標	R 5年度実績（※2）	達成率	評価
千葉市中央いきいきプラザ		79.5%	99.4%	C
千葉市花見川いきいきプラザ		82.1%	102.6%	C
千葉市稲毛いきいきプラザ		83.9%	104.9%	C
千葉市若葉いきいきプラザ		79.4%	99.2%	C
千葉市緑いきいきプラザ		86.3%	107.8%	B
千葉市美浜いきいきプラザ		76.5%	95.6%	C
千葉市蘇我いきいきセンター		77.7%	97.1%	C
千葉市花見川いきいきセンター	80%	83.7%	104.6%	C
千葉市さつさが丘いきいきセンター		86.0%	107.4%	B
千葉市あやめ台いきいきセンター		90.5%	113.1%	B
千葉市大宮いきいきセンター		86.8%	108.5%	B
千葉市都賀いきいきセンター		80.9%	101.1%	C
千葉市越智いきいきセンター		90.2%	112.8%	B
千葉市土気いきいきセンター		86.4%	108.0%	B
千葉市真砂いきいきセンター		79.2%	99.0%	C
合計		81.8%	102.2%	C

※2 算定方法は、6（1）アンケート質問8（6）の（満足＋ほぼ満足）÷回答者数で算定

【評価の内容】※数値はいずれも原則であり、特殊な事情がある場合は当該事情も含め、総合的に判断する。

A：成果指標が市設定の数値目標の120%以上（ただし、指定管理者設定の目標に達していない場合はBとする。）

B：成果指標が市設定の数値目標の105%以上120%未満（ただし、指定管理者設定の目標に達していない場合はCとする。）

C：成果指標が市設定の数値目標の85%以上105%未満

D：成果指標が市設定の数値目標の60%以85%未満

E：成果指標が市設定の数値目標の60%未満

4 収支状況

(1) 収入

(単位：千円)

費目	R5年度		[参考] R4年度	計画実績差異		主な要因
	分類	金額		分類	金額	
指定管理料	実績	655,261	631,634	実績－計画	△ 19,430	以下①のとおり 予算編成時に精査したため。
	計画	674,691	651,753	計画－提案	△ 6,604	
	提案	681,295	666,668			
利用料金収入	実績	0	0	実績－計画	0	
	計画	0	0	計画－提案	0	
	提案	0	0			
その他収入	実績	0	16,466	実績－計画	0	
	計画	0	0	計画－提案	0	
	提案	0	0			
合計	実績	655,261	648,100	実績－計画	△ 19,430	
	計画	674,691	651,753	計画－提案	△ 6,604	
	提案	681,295	666,668			

(2) 支出

(単位：千円)

費目	R5年度		[参考] R4年度	計画実績差異		主な要因
	分類	金額		分類	金額	
人件費	実績	432,866	432,688	実績－計画	△ 14,788	職員の人事異動による 予算編成時に精査したため。
	計画	447,654	437,152	計画－提案	△ 17,615	
	提案	465,269	453,269			
事業費	実績	107,438	111,491	実績－計画	△ 12,261	以下②のとおり 予算編成時に精査したため。
	計画	119,699	99,409	計画－提案	17,911	
	提案	101,788	101,160			
事務費 (委託料を除く)	実績	47,166	44,845	実績－計画	△ 220	予算編成時に精査したため。
	計画	47,386	47,411	計画－提案	△ 9,081	
	提案	56,467	54,763			
委託費	実績	55,017	54,720	実績－計画	△ 533	予算編成時に精査したため。
	計画	55,550	56,039	計画－提案	3,557	
	提案	51,993	51,940			
その他事業費	実績	4,213	4,356	実績－計画	△ 189	法人運営への繰入による
	計画	4,402	11,742	計画－提案	△ 1,376	
	提案	5,778	5,536			
本社費・共通費	実績	0	0	実績－計画	0	
	計画	0	0	計画－提案	0	
	提案	0	0			
合計	実績	646,700	648,100	実績－計画	△ 27,991	
	計画	674,691	651,753	計画－提案	△ 6,604	
	提案	681,295	666,668			

※「計画」とは、事業年度ごとの事業計画書で定めた計画額を示す。

「提案」とは、選定時の提案書、事業計画書で指定管理者が提案した見積額を示す。

①収入の「実績－計画△19,430千円」の差額の主な要因について

人事異動や退職等による事務費（福利厚生費）・人件費（15,980千円）、また、新型コロナウイルスについて5月に5類に移行したため、新型コロナウイルス感染症対策費用（3,450千円）に残額が生じた。（未使用分については清算し市に返還している）

②支出の事業費「実績－計画△12,261」の差額の主な要因について

保健衛生費 計画6,784千円 実績2,781千円 → コロナ対策経費（臨時予算）が新型コロナウイルスについて5月に5類に移行したため、対策経費をそれ以降使用していないため（未使用分については清算し市に返還している）

水道光熱費 計画63,440千円 実績54,741千円 → 燃料費高騰による対策をしていたが想定より光熱水費が高騰しなかったため。

5 管理運営状況の評価

(1) 管理運営による成果・実績（成果指標の目標達成状況）

評価項目	市の評価	特記事項
施設利用者数	D	3（1） 達成率77.7%
利用者アンケートによる満足度	C	3（2） 達成率102.2%

【評価の内容】※数値はいずれも原則であり、特殊な事情がある場合は当該事情も含め、総合的に判断する。
A：成果指標が市設定の数値目標の120%以上（ただし、指定管理者設定の目標に達していない場合はBとする。）
B：成果指標が市設定の数値目標の105%以上120%未満（ただし、指定管理者設定の目標に達していない場合はCとする。）
C：成果指標が市設定の数値目標の85%以上105%未満
D：成果指標が市設定の数値目標の60%以上85%未満
E：成果指標が市設定の数値目標の60%未満

(2) 市の施設管理経費縮減への寄与

評価項目	市の評価	特記事項
市の指定管理料収入実績／提案額の削減	C	4(1)実績655,261千円 / 提案額681,295千円 = 96.18%

【評価の内容】※数値はいずれも原則であり、特殊な事情がある場合は当該事情も含め、総合的に判断する。
A：選定時の提案額から10%以上の削減
B：選定時の提案額から5%以上10%未満の削減
C：選定時の提案額と同額又は5%未満の削減
(D・E：選定時の提案額を超える支出を行うことはないため、該当なし)
－：対象外（市の指定管理料支出がない。）

(3) 管理運営の履行状況

評価項目	中央 いきいき プラザ		花見 いきいき プラザ		稲毛 いきいき プラザ		若葉 いきいき プラザ		緑 いきいき プラザ		美浜 いきいき プラザ		蘇我 いきいき センター		花見川 いきいき センター		さつきが丘 いきいき センター		あやめ台 いきいき センター		大宮 いきいき センター		都賀 いきいき センター		越智 いきいき センター		土気 いきいき センター		真砂 いきいき センター	
	自己 評価	市の 評価	自己 評価	市の 評価	自己 評価	市の 評価	自己 評価	市の 評価	自己 評価	市の 評価	自己 評価	市の 評価	自己 評価	市の 評価	自己 評価	市の 評価	自己 評価	市の 評価	自己 評価	市の 評価	自己 評価	市の 評価	自己 評価	市の 評価	自己 評価	市の 評価	自己 評価	市の 評価	自己 評価	市の 評価
1 市民の平等利用の確保・施設の適正管理																														
市民の平等利用の確保																														
関係法令等の遵守	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C
リスク管理・緊急時対応																														
2 施設管理能力																														
(1)人的組織体制の充実																														
管理運営の執行体制	C	B	C	B	C	C	C	C	C	B	C	B	C	C	C	C	C	C	C	C	C	B	C	C	C	C	C	B	C	C
必要な専門職員の配置																														
従業員の能力向上																														
(2)施設の維持管理業務																														
施設の保守管理	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C
設備・備品の管理・清掃・警備等																														
3 施設の効用の発揮																														
(1)幅広い施設利用の確保																														
開館時間・休館日	C	C	C	B	C	C	C	C	C	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
利用料金設定・減免																														
利用促進の方策																														
(2)利用者サービスの充実																														
利用者への支援	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C
利用者意見聴取・自己モニタリング																														
(3)施設における事業の実施																														
施設の事業の効果的な実施	B	B	B	B	B	B	B	C	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	C
自主事業の効果的な実施																														
4 その他																														
市内業者の育成																														
市内雇用への配慮	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C
障害者雇用の確保																														
施設職員の雇用の安定化への配慮																														

【評価の内容】

- A:管理運営の基準・事業計画書等に定める水準を上回る、特に優れた管理運営が行われていた。
 B:管理運営の基準・事業計画書等に定める水準を上回るなど、優れた管理運営が行われていた。
 C:概ね管理運営の基準・事業計画書等に定める水準どおりに管理運営が行われていた。
 D:一部、管理運営の基準・事業計画書等に定める水準を満たしておらず、改善の余地がある管理運営が行われていた。
 E:管理運営の基準・事業計画書等に定める水準を満たしておらず、速やかな改善が求められる管理運営が行われていた。

(4) 保健福祉局指定管理者選定評価委員会意見を踏まえた対応

意見の内容	意見対象年度	対応・改善の内容
実習費とコピー料について、自主事業ではなく、指定管理業務に取り込むことをご検討いただきたい。	令和5年度	自主事業については、「千葉市指定管理者制度運用ガイドライン」において「管理する施設において必須業務以外の事業であって、指定管理者が自らの発意、企画提案により市の承認を得て実施するもの」と定められている。 確認の結果、複写サービスについては、この定めにより市が自主事業として承認している事業であることから、引き続き自主事業として整理することとした。 実習生の受入れについては、市が指定管理者に行わせる業務として定めたものではなく、千葉市社会福祉協議会が自主的に法人として受け入れているものであることから、指定管理業務には当たらないものとした。 なお、収支決算報告書においてコピー料を分けて記載するようにした。
拠点間繰入金について、千葉市社会福祉協議会全体の収支と各施設の収支の調整がきちんと行われているかご検証いただきたい。		令和5年度決算より「拠点間繰入金に関する明細一覧」を作成し、各施設所管課へ共有した。 なお、令和5年度人件費において拠点区分間繰入金は発生していない。
「施設利用者数」について、総数だけでなく、館内活動の利用者と館外や出張サービス等の利用者の内訳を記載することもご検討いただきたい。		月次報告書、事業報告書に、出張サービス等の利用者内訳の記載した。
SNS等の新しい媒体での広報手段の拡充も含め、引き続き新規利用者の拡大ができるような工夫に努めていただきたい。		・ホームページや市政だより、ポスター・チラシのほか、適宜X（旧Twitter）やLINEによる投稿を行うなど事業内容の広報活動を行った。また、近隣自治会やあんしんケアセンターにいいききだよりを配布するなど、新規利用者の獲得に努めている。 ・LINEを使って事業の情報提供や連絡等を実施するため、令和5年度から花見川いいききプラザで検討を開始し、令和6年度からは全施設のボディケアスクール利用者を対象としてLINEグループの活用を開始した。
認知症の当事者の方へのアプローチ方法についてご検討いただきたい。		令和6年1月に高齢福祉課、地域包括ケア推進課、あんしんケアセンター、認知症の人と家族の会、全プラザ職員が集まり、認知症事業協議体開催。認知症の方が参加出来る仕組みを検討し、認知症当事者の方を交えながら事業検討を進める方針とした。 以後、中央いいききプラザを中心とし、認知症当事者の方を交えながら事業検討を継続している。

6 利用者ニーズ・満足度等の把握

(1) 指定管理者が行ったアンケート調査

調査方法	令和5年10月1日～31日の間、来館者全員にアンケート用紙配布。無記名にて記入の上、アンケート箱設置による回収。
回答者数	6,582人

令和5年度アンケート結果

令和5年度アンケート結果

回答者個人属性

居住区

中央区

花見川区

稲毛区

若葉区

緑区

美浜区

市外

無回答

性別

男性

女性

無回答

年代

60～64歳

65～69歳

70～74歳

75～79歳

80～84歳

85歳～

無回答

世帯構成

ひとり暮らし

60歳以上のみの世帯

その他

無回答

質問1 ご利用いただいている内容は次のうちどれですか。(複数回答可)

講座

2,042

同好会活動

2999

ヘルストロン・マッサージ機

167

講演会

220

体操教室

821

テレビ視聴

53

機能回復訓練

581

入浴・シャワー

103

新聞・雑誌閲覧

115

生きがい活動

795

カラオケ

101

その他

236

世代間交流

67

囲碁・将棋

195

無回答

173

生活・健康相談

43

トレーニング機器

30

質問2 ご利用いただいている目的は次のうちのどれですか。(複数回答可)

介護予防

体力増進

心配ごとの相談

友人との交流

生きがいづくり

1,020

2,697

36

1,705

1,364

教養・知識の習得

趣味・レクリエーション

入浴

その他

無回答

1,242

2,318

78

72

210

質問3 どのくらいの頻度でご利用いただいていますか。

ほぼ毎日

週4～5日

週2～3日

週1回

月1～2回

年に数回

無回答

0.8%

2.9%

15.0%

23.1%

55.5%

0.9%

1.7%

51人

194人

987人

1,523人

3,656人

56人

115人

質問4 いつからご利用されていますか。

今年から

1年前から

2年前から

3年前から

4年前から

5年以上前から

無回答

18.8%

10.3%

7.2%

7.6%

5.7%

46.6%

3.8%

1,239人

677人

477人

502人

374人

3,064人

249人

質問5 利用開始時に介護認定を受けていましたか。受けていた場合は、判定結果をご回答ください。

受けてない

要支援1

要支援2

要介護1

要介護2

要介護3

要介護4

要介護5

無回答

合計

6,077

82

39

20

5

4

0

1

354

6,582

質問6 現在、介護認定を受けていますか。受けている場合は、判定結果をご回答ください。

受けてない

要支援1

要支援2

要介護1

要介護2

要介護3

要介護4

要介護5

無回答

合計

5,465

94

63

31

4

3

1

0

921

6,582

質問7 主催事業にご参加いただく際、何からお知りになりますか。(複数回答可)

市政だより

いきいきプラザだより

ホームページ

館内掲示

自治会等の回覧

知人の紹介

その他

無回答

3,817

1,295

64

835

117

1,155

117

427

質問8 運営状況について、感想をお聞かせ下さい。

設問	満足	ほぼ満足	普通	やや不満	不満	無回答
(1)設備・備品類の配備状況について	24.4%	46.2%	25.7%	1.2%	0.3%	2.2%
	1,604人	3,040人	1,693人	80人	21人	144人
(2)施設的环境(衛生面・安全性)はいかがですか	25.8%	46.0%	25.6%	1.1%	0.0%	1.5%
	1,699人	3,026人	1,688人	72人	0人	97人
(3)職員の対応はいかがですか。	40.9%	41.2%	17.6%	0.1%	0.0%	0.2%
	2,655人	2,676人	1,143人	4人	3人	15人
(4)施設や事業の案内、お知らせは充分にできていますか。	21.6%	41.8%	31.8%	1.5%	0.1%	3.1%
	1,424人	2,753人	2,095人	99人	9人	202人
(5)ご利用いただいて介護予防になると感じられますか。	36.4%	42.3%	12.8%	1.1%	1.7%	5.7%
	2,393人	2,787人	842人	73人	113人	374人
(6)全体としてどのように感じますか。	27.8%	52.3%	17.4%	0.4%	0.0%	2.1%
	1,828人	3,442人	1,148人	26人	2人	136人

※(4)の回答は、「充分、ほぼ充分、普通、やや不十分、不十分、無回答」から選択
※(5)の回答は、「そう思う、まあまあそう思う、普通、やや思わない、思わない、無回答」から選択
※成果指標の利用者アンケートによる満足度は(6)の(満足+ほぼ満足)÷回答者数で算定

81.8%

※各施設ごとのアンケート結果については、「参考資料の1－4」に掲載。

(2) 市・指定管理者に寄せられた主な意見・苦情と対応

苦情については、指定管理者内部で概ね対応がなされており、市へ寄せられた苦情は年間2件と少なかった。「市に寄せられた主な意見・苦情」の欄には一例を記載しています。

市に寄せられた主な意見・苦情	市の対応
何故名札を強制されるのか。プライバシーの侵害だ。	講師が失礼なく名前を呼びやすい、受講生同士の交流がスムーズに行える、などの理由から実施していました。 今後は名札をつけていただくなくても大丈夫です。 また本名でなくてもよいとするなど、対応についても工夫したいと思います。着用については施設の職員までご相談頂けると助かります。
指定管理者に寄せられた主な意見・苦情	指定管理者
講座の申込みにお金がかからないようにしてほしい。窓口で申込用紙を記載するではダメなのか。	多数の申込みをいただくため、現在は往復はがきもしくはホームページからの申込みとなっていることを伝え納得いただきました。
フリーWi-Fiを設置してほしい。いきいきプラザのツイッター閲覧や調べもの等できると便利。コミュニティーセンターや公民館などにはWi-Fi環境が整備されているところも多い。	フリーWi-Fiの環境整備には経費が掛かること、また、他のプラザ・センターも含めた共通整備事項となるため、市への報告も含め検討させて頂く旨をお伝えしました。
廊下とトイレ前通路の間に若干段差があり、転ぶ危険性がある。	トイレ前通路から廊下の段差に黄黒のトラテープを貼り、対応後、「段差がわかりやすくなった、目につくようになった」と改善の評価を頂きました。
靴の履き間違えは気分が悪い。声掛け以外の対応してほしい。	玄関靴置き場前に名前を書く用紙と洗濯バサミを置き、履き間違えがないよう各自で使用していたき、玄関に注意喚起ポスターを掲示して対応しました。
カラオケの利用時間帯を増やしてほしい。個人開放日の日程表をWeb上で閲覧できるようにしてほしい。	集会室の空き枠に可能な範囲でカラオケの個人開放日を設け、いきいきだよりの裏面に個人開放予定日を載せることでWeb上の掲載としました。
入浴時に財布を忘れて所持金がなく、借入書にて入浴依頼したが断られた。対応に淋しい気持ちになった。	職員が利用者に現金を貸すことや借入書による入浴はできないことを説明しました。次回利用時に改めてお気持ちを傾聴後、説明することでご理解いただけました。
浴室で場所取り禁止のルールを守らず、場所取りしている人が多い。	ご不快な思いをされたことに対して謝罪しました。その後、既存のポスター以外に別のポスター(ゆずり合いのお気持ちでのご利用)も掲示し、改めて注意喚起を行いました。
コロナ禍で各種イベントに制限があったが、以前のように楽しいことを企画してほしい。脳の刺激になるような活動、家庭で継続可能な体操を教えてください。	利用者の要望を傾聴し、レクリエーションを交えた脳トレを企画し実施しました。

指定管理者に寄せられた主な意見・苦情	指定管理者
階段のフロア材が剥がれて捲れている。足が引っ掛かり転倒の危険がある。	接着剤の劣化とフロア材の老朽化による縮みがあり、応急処置を行い、階段長尺シート張替え修繕を実施しました。
ボディケアスクールに参加したかったが落選してしまった。	全プラザ・センターの欠員を確認し、他施設の募集状況を伝えるとともに、録画映像を活用するミニボディケアスクールについて案内した。
麻雀台の表面がボロボロなので修繕してほしい。	2台更新するとともに、古いものも合わせて使用し、増加している麻雀利用希望者に対応した。

7 総括

(1) 指定管理者による自己評価

ア 全体

総括 評価	C	所見	●5月8日から新型コロナウイルス感染症の5類への移行もあり、感染対策は徹底しながらも各種制限が解除された。カラオケや歌唱系の団体の活動も活発になり、4年ぶりのカラオケ大会やフェスティバル個人演芸会も行われ、少しずつ館内も活気を取り戻した。地域や大型商業施設からも出張教室や測定会の依頼も増え、いきいきプラザ・センターが協力して対応した。高齢者だけではなく、地域の方々の幅広い世代にも広報できた。 ●いきいきプラザで開催する地域多世代交流も少しずつ地域に浸透し始め、5年度は4区で展開し、地域の子どもから大人、高齢者、障害児・者等が一堂に会してレクリエーションやゲーム、コンサート等で交流を図った。今後、いきいきプラザ・センターで行われるこのようなイベントに、認知症当事者の方も安心して参加できるよう、当事者の方も含め所管課、地域包括ケア推進課、千葉市あんしんケアセンター、認知症の人と家族の会等と協議体を発足して、実現に向け話し合いや検討を開始した。 ●eスポーツの体験会や短期講座を実施して、ねんりんピック予選会や本戦出場のため、利用者支援を行った。職員も「健康ゲーム指導士」の資格を取得し、eスポーツを通して高齢者の健康と交流を支援した。社会福祉協議会区事務所のほか、社会福祉協議会地域福祉推進課や千葉市成年後見支援センター等の内部での連携や協力関係を構築して、各種イベントや講演会等の実施、広報の相乗効果を図った。生きがい活動支援通所事業で実施した体力測定をもとに、効果測定の結果を分析し、理学療法士が体力向上プログラムを作成して生きがい活動支援通所事業のプログラム内容に取り入れ、日々健康や筋力の維持を意識していただいた。 ●全施設利用者満足度の向上を図るため、職員が施設間の交流を行い、他施設の良い所を自施設で取り組む等活性化を図った。職員の配置上、交流する時間が多く取れなかったため、いきいきプラザ・センター職員で構成する専門委員会を通じて、情報共有や他施設の状況等を知りえる手段として、内部広報誌の作成について検討を開始した。 ●理学療法士が常勤となり、ボディケアスクールの他にスクール終了後の時間を活用して、テーマを絞った短期教室を開催した。また、健康測定会時に相談コーナーの設置や出張体操等へも参加した。理学療法士を講師として、職員向けの短時間オンライン体操研修も実施した。
----------	---	----	--

イ 施設別

施設名	総括評価	所見
中央いきいき プラザ	C	●高齢者福祉講座に、通年と半期の期間と合わせて、年度の途中から60歳になられた方も参加できる様、今年度から短期講座（4回）を実施した。 ●高齢者講演会では、いきいきプラザ・センター所属の理学療法士の体操を中央いきいきプラザと稲毛いきいきプラザをオンラインでつなぎ、中継した。また、「成年後見制度の知識を深めよう」では美浜いきいきプラザとZoomを活用して、同時進行で講演会を行った。 ●いきいきプラザフェスティバルは、コロナ禍前に実施していた内容に近い形で開催できた。高齢者福祉講座、同好会の方々の学習発表や作品展示の他に、NTTドコモ協力のもとスマートフォン相談会や個人演芸会を実施し多くの方に参加いただいた。 ●利用者交流支援では、4年ぶりに「カラオケ大会」を実施した。 ●地域多世代交流事業「秋まつり」を実施した。子供から大人まで世代を超えて参加できるイベントとして、多くの方にご来場いただいた。近隣の障害者施設の方々や同好会の会員等にも協力いただき、まだ中央いきいきプラザを知らない地域住民の方にも知っていただく機会となった。 ●アリオ蘇我で、中央区健康課と協働し、「健康づくりイベント～今日からはじめよう+10!!」のイベントの一環で骨密度・血管年齢測定を実施した。また、イオン幕張新都心店では、イオンリテール新規シニア事業「MySCUE」（主にシニアの方々をサポートしている、ご家族や身近な人たちの悩みや課題の解決を目的に作られたプラットフォーム）が開始されるにあたり、事業の周知とイベントを盛り上げるため6区のいきいきプラザ・センターが参加した。 ●空き部屋を利用した地域カフェづくりでは、地域の誰もが参加できる集いの場所づくりを、前年度高齢者福祉講座「はじめようボランティア講座」を受講した受講生が主体となり立ち上げ、実施した。 ●松ヶ丘地区全域の病院、幼稚園、小中学校、高等学校、町内自治会等43の関係機関が集まる松ヶ丘円卓会議に出席した。また、行政機関やあんしんケアセンター、民生委員、地域の医療・福祉機関の関係者と共に松ヶ丘圏域多職種連携会議に参加した。いきいきだよりやイベント等参加者募集のチラシを、近隣地域にある40の自治会の延べ300枚の回覧板に挟んでもらうことで施設の広報を行った。 ●近隣大学の看護実習や社会福祉士実習を受入れ、高齢者の健康保持や地域生活支援に関する学習機会を提供した。

- 開館時、看護師が窓口にて利用者迎え入れや生きがい活動支援通所事業、ボディケアスクール等への事業に関わることで健康相談に繋げ、件数が増加した。
- 自主事業としてボディケアスクールを担当している理学療法士を撮影したDVDを活用し、単発の体験会の実施や定期実施分の枠を増加して実施する等、運動機会の拡充を図った。
- シニアリーダー体操の活動が継続できるよう、活動の場を提供し活動支援を行った。
- 高齢者福祉講座は、期の途中からたくさんの方が参加できるよう短期（4半期）の講座を新たに6講座開講した。
- 地域多世代交流として、夏まつり2日間、クリスマスに1日、ポッチャやモルック、ワークショップの他あんしんケアセンターによる認知症啓発活動、千葉北高校吹奏楽部によるコンサート等を実施した。生きがい活動支援通所事業利用者が職員と協働して運営に参加する等、社会参加の機会を提供した。また、地域の町内自治会や横橋高校福祉科と連携のもと実施した。
- X（旧ツイッター）を活用し、事業案内、活動報告を随時公開するとともに、翌日の予定を毎日更新する等して最新の情報が得られるよう努めた。要望に応じて登録を支援し、利用者が情報を得る機会を増やした。
- LINEを開設してボディケアスクールやミニボディケアスクール利用者に対し、情報発信や個別相談に繋げるよう努めた。また、個別相談に繋げる機会とした。
- いきいきプラザの空き部屋及びゲートボール場を活用し、時間内いつでもどなたでも参加できるよう「はなもるちゃ」（ポッチャ・モルック）を行い、地域交流の場とした。定期的に参加している利用者からの要望にて同好会立ち上げの支援を行った。
- 介護予防の一助を担うため、地域高齢者に向けて健康測定や介護予防体操、ポッチャ等いきいきプラザの事業を体験していただく出張教室を積極的に実施し、新規17団体開拓した。
- 健康フェスティバルでは理学療法士による機能回復訓練個別相談ブースを設置し、体の動きや痛み等を評価し、アドバイスを実施した。
- eスポーツの拠点整備の一環として、短期講座や体験会の開催、フリースペースでの設置、オンライン対戦を実施した。職員も健康ゲーム指導士の研修を受講し講師を務めた。
- 初めて花見川区民まつりに社会福祉協議会区事務所と協働参加し、施設の宣伝とポッチャ体験会を実施して広報啓発の機会拡充を図った。
- 千葉市あんしんケアセンターなど地域の関係機関との連携、協力に取り組み、生活支援コーディネーター第1.2層含めて情報共有や事業周知に努めた。

- 新規取組みとして、どなたでも自由に参加できる「いなげFun-Fun（ファンファン）歌声ひろば」を定期的（毎月1回）に開催して利用者増につなげた。稲毛区シニアリーダーのメンバーによるギターの生演奏に併せて参加者が懐かしい歌と一緒に歌い、交流を深める場とした。また、施設の会場を地域の活動者に演奏活動の場として定期的に提供する地域カフェスペースの場とした。
- 新規取組みとして、認知症予防の効果につながる「eスポーツ」（太鼓の達人）の体験会・常設を実施し、利用者増に繋げた。また、出張教室のメニューにeスポーツを追加し、健康測定会や介護予防体操と併せてeスポーツを体験する機会を次年度へのなど介護予防を図った。
- 新たな実施形態として、中央いきいきプラザと連携してオンライン配信による理学療法士の体操教室を相互に開催（年2回）して利用者増に繋げた。
- 新規取組みとして、ボディケアスクールを受けられない方へ理学療法士監修のDVDによる「ミニボディケアスクール」を実施して利用者増を図った。
- 地域活動ボランティアの育成として「人のため自分のための読み聞かせボランティア講座」終了後、ボランティア同好会（たんぼぼの会）の立ち上げにつなげた。近隣保育園児との交流を3回を行うなど、活動の支援を図った。また、今後、地域のボランティア活動に展開できるよう社会福祉協議会区事務所と情報共有して連携を図った。
- 生きがい活動支援通所事業では、新規利用者の確保含めて多くの高齢者の方への介護予防につなげるために体験会を実施、また、一般応募とは別に地域で高齢者と接点のある民生委員に参加・体験していただき、新規利用者の確保に努めた。
- 同好会への活動支援では、高齢者福祉講座終了後や同好会体験会を実施して新規同好会の立ち上げや新規会員の加入につなげた。
- 男性の利用参加の向上を図るために前年度に続き「走らないサッカー」を実施、参加者数は少数ではあったが、男性のみ参加、また、普段利用のない新たな利用者の参加を得た。
- 個人の居場所づくりとして、自由に参加でき懐かしい映画を鑑賞できる上映会を定期的（毎月2回）に開催して利用者増につなげた。
- 個人の居場所づくりとして、麻雀の需要が高いことから一般開放部屋を増やして利用者増につなげた。
- 地域多世代交流として、近隣の高校生や保育園児、地域活動団体、生きがい活動支援通所事業利用者の有志、千葉市あんしんケアセンターなどの参加協力の中、「粋いき夏まつり」を実施した。高校生のマンドリンギター演奏や大道芸、地域活動団体の踊り、保育園児の踊り、eスポーツ体験、生きがい活動支援通所事業利用者有志の昔遊び、千葉市あんしんケアセンターの認知症SOS声掛けでは若い親子世代を含めたスタンプラリーなど、高齢・障害・児童が交流して、住民同士が相互理解する場につながった。また、利用者がボランティアとして参加され、ボランティア活動の機会につながられた。
- 社会福祉協議会区事務所と連携して社会福祉協議会地区部会のいきいきサロン等に出張して健康体操や健康測定、eスポーツを実施して、普段施設利用がない地域の高齢者への健康づくりを図った。
- 広報活動では、地域の高齢者と接点を持つ民生委員に情報提供するために、区内13地区の民生委員児童委員協議会に広報誌（いきいきだより）を毎月配布を実施して、新たな利用者確保に努めた。
- 社会福祉協議会区事務所と定期的に会議を設けて、情報共有や事業連携に努めた。
- 千葉市あんしんケアセンターなど地域の関係機関との連携協力に引き続き取り組み、情報共有や事業周知に努めた。



- 千葉市あんしんケアセンター千城台と協働し、施設形状を活かした中庭のオープンスペースで、地域の高齢者の仲間づくりの場となるポッチャ交流会を開催し、月例化した。
- 千葉市あんしんケアセンター千城台による「出張相談会」を曜日・時間帯を変えながら、毎月4回開催し、様々な困りごとに関する相談援助を行った。
- 千葉県立千城台高等学校の学生が、意見を出し合って立ち上げた認知症カフェで、出張ポッチャ体験会を実施し、高校生が企画する新たな地域活動への支援を行った。
- 地域病院（総泉病院）との連携事業を企画、9月を「介護予防強化月間」と銘打ち、講演会を3週連続開催した。
- イオンモール幕張新都心でストレス測定、健康相談を行う「健康測定会」を開催し、参加者への健康意識啓発といきいきプラザの広報を行った。
- 屋根付きゲートボール場のある施設特性を踏まえ、千葉市ゲートボール連盟と連携の上、千葉市内で活動している団体を招いてゲートボール交流対抗戦を行った。
- 若葉区健康課が推し進めるラジオ体操を軸とした「若葉区地域健康づくり支援連絡会議」へ参加し、区のラジオ体操推進プロジェクトの普及活動へ協力した。また、「フレイル健康教育」を共催し、同好会活動の会員等に対してフレイルに関する講話を行った。
- 関係機関との連携の一環として、若葉区圏域あんしんケアセンター、若葉区保健福祉センター、社会福祉協議会区事務所等、地域の高齢者支援に関わる機関との定例地域ケア会議に参加し、高齢者支援に関する事例検討や情報共有を行った。
- 社会福祉協議会区事務所と連携の上、社会福祉協議会地区部会従事者研修（健康維持講座）を共催した。また、生活支援コーディネーター若葉区第1層協議体に参加し、高齢者が安心して暮らす地域づくりに向けた取り組みについて共有した。

- 介護予防や認知症予防を目的とした高齢者講演会を14回開催した。
- 全いきいきプラザ・センターにて、テクノロジーの活用による快・適な街づくりを目指す千葉市スマートシティ推進課、(株)ソフトバンクと連携したスマートフォン講演会を開催し利用促進を図った。
- 千葉市あんしんケアセンター誉田と連携し「老人ホームについて」の講演会と、認知症サポーター養成講座を開催し地域資源情報の提供と認知症理解の向上を図った。
- 医療機関（総泉病院）と連携し、専門職による3つのテーマ「免疫力を高める食事」「誤嚥性肺炎予防」「認知症予防体操」を開催し、介護予防に関する知識の向上を図った。
- eスポーツ体験会を開催しゲームが初めての方への効果説明や啓発を図った。
- 高齢者福祉講座は、介護予防や趣味系等、多様な講座を企画した。年度途中からでも参加しやすいよう、短期講座（全4回）を新たに開設した。地域資源である「昭和の森」を舞台にした「ノルディックウォークで健康ゲット」を実施した。
- 「毎日が介護予防」と題して、館内にあるウォーキングマシンや手すりのある階段を活用して、仮想の日本一周や富士山登山を無理なく楽しんでいただけるイベントを行った。
- (株)イオンと連携しイオン幕張新都心でのイベントにて、ストレス測定会を実施した。
- 同好会支援として、会員募集掲示板を誰もが目にしやすい場所に設置したり、いきいきプラザだよりも情報を掲載し新規の会員を募集した。
- ホームページやいきいきプラザだよりの他、地域コミュニティ誌を活用しイベントの案内や募集、報告等の情報発信を行った。また、地域のスーパーに協力いただき、ポスター掲示とパンフレット配架を行った。
- いきいきプラザフェスティバルでは、コロナ禍により休止していた演芸会を再開した。歌唱や演舞を披露していただくことで日々の活動意欲の向上へつながった。「おゆみ野ふれあい館」で活動している同好会にも学習発表の声をかけ2団体の参加があった。
- 「生きがい活動支援通所事業」を知っていただけるよう1日コース、半日コースの体験会を行った。シニアリーダーによる体操を実施した。
- 誉田あんしんネットワーク会議や見守りネットワーク会議土気に参加し、関係機関や民生委員と情報交換や共有をして協力体制の強化に努めた。あんしんケアセンターには講演会講師として協力していただいたり、協働で町内自治会等に出向き、測定会や体操等を行った。また、誉田圏域多職種連携会議に参加し、地域での認知症支援体制について情報を共有した。

- 理学療法士による個別相談は、ボディケアスクール開始時に案内するとともに、日常からの対話で相談や質問を引き出し、件数を増加させた。
- 応募倍率の高いボディケアスクールやいきいき体操は、定員、開催数を増加させた。
- 理学療法士の常勤化に伴い、短期腰痛予防教室ポイントケアルームや録画映像を活用したミニボディケアスクールにより運動の場を拡充させた。
- 6月より毎日、開館前に開始したラジオ体操は、利用者数の増加を図るとともに、利用者同士あるいは職員と利用者とのコミュニケーションの場となった。
- eスポーツの拠点整備の一環として、短期講座や体験会の開催、フリースペースでの設置、オンライン対戦及び職員の健康ゲーム指導士の受講などを実施した。
- 民生委員児童委員協議会で事業案内し、毎月の各民生委員へのいきいきだよりによる広報を開始した。また、高洲中学校区の民生委員児童委員と意見交換を実施した。
- 高洲・高浜、稲毛海岸、打瀬の3か所の社会福祉協議会地区部会で健康フェスティバルを開催し、幸町から幕張西までのふれあい・いきいきサロン等への出張など、区内全域かつ様々な地域団体に対し支援を拡大した。
- 高齢者福祉講座は、期の途中から参加できるよう短期（4半期）の講座を新たに5講座開講した。
- ソニー生命保険（株）や花王（株）など民間事業者や美浜区健康課と連携し、相続や資産運用、健康など多彩なテーマの講演会を開講した。
- オンライン配信を活用した講演会を、東都大学の公開講座と千葉市成年後見支援センターにより2回開催した。
- NPO法人と連携し、地域の中で年齢を問わず集える居場所づくりを月1回開催した。
- 千葉市立稲毛高等学校・国際中等教育学校の弦楽オーケストラは、企画から一緒に打合せし、高齢者との交流と共に学生の社会経験の場を提供した。
- 生きがい活動支援通所事業では、利用者が持つ特技を引き出し、麻雀や書道、民話の語りなど利用者自身が講師を担うことで、自己有用感や他者貢献感を得てもらい、利用者の生きがいづくりや介護予防に繋がった。
- 「ベランダで楽しむ寄せ植え」、「元気向上！筋トレ体操」、「ボッチャ入門」講座は、修了後に同好会を発足した。

蘇我いきいき
センター

C

- 蘇我コミュニティセンターとの連携を強化し、協働事業等で蘇我地区を活気づけました。当センターで恒例となっている「歌声集会」は、コミュニティセンターを会場にして実施したり、コミュニティセンターが実施した防災イベント「まなぼうさい」では当センターが「eスポーツ体験会」を行いました。定例会や懇談会にも参加し、あんしんケアセンターや地域の町内自治会、近隣施設、民生委員等も含めて、蘇我地区の今後の発展に向け話し合いを行った。
- 蘇我いきいきセンターフェスティバルを4年ぶりにコロナ禍前に近い内容で実施できました。参加団体数はコロナ禍前には及びませんが、地域の青年会やボランティアの方々にも協力いただき、軽食や野菜販売、バザー等も行い、2日間という少ない日数でしたが、多くの方に参加いただいた。
- 児童施設との複合施設という強みを生かし、子育てリラックス館や子どもルームと協力して世代間交流を行いました。7月には高齢者と子供たちで七夕飾りを作成したり、短冊に願い事を書いて笹に取り付けました。また、当センター所属の同好会会員が、マジック教室を開催したり、夏の盆踊り教室を実施しました。共同作業等を行うことで多世代にわたり交流が図れた。
- あんしんケアセンターと協力して、新宿公民館を拠点に活動する団体に出張体操や相談を継続的に行っていましたが、活動中止に伴い派遣も終了となりましたが、同公民館で活動する新規団体から依頼を受け、月2回定期的に支援した。
- いきいき体操を2コース実施することで、ボディケアスクールに落選された方や曜日の都合が合わず参加できなかった方にも身体を動かす機会を幅広く提供した。
- アリオ蘇我で行われた、中央区健康課主催の健康イベントに中央プラザと一緒に参加し、骨密度及び血管年齢測定を2日間実施した。また、全プラザ・センターが協力して行った、イオンモール幕張新都心でのストレスチェック測定にも参加して、高齢者に限らず地域のたくさんの来場者にプラザ・センターの宣伝・広報を行った。
- 高齢者福祉講座を今年度から通年、半期と合わせて短期（4回講座）を設定して、年度の途中や短期間に集中して受講したい方等が、講座を受けやすくした。特に「理学療法士の体操講座」が人気があり、落選者も多数出たため年度で4回実施した。

花見川いきいき
センター

C

- 花見川団地自治会、住宅自治会をはじめ、図書館、保育所、小学校にポスター掲示やチラシ配架などの協力を依頼し広報に努めた。また、web上の無料掲示板「びびなび」に講演会開催の記事を投稿し、より多くの方の目に触れる機会を設けた。
- 自主事業としてボディケアスクールを担当している理学療法士の指導を撮影したDVDを上映して、身体を動かす「ミニボディスクール」を開催しボディケアスクールに落選、補欠の方を中心に体操参加の機会を提供した。また、1～3月期より定員枠を増やし、運動機会の拡充を図った。
- シナプソロジーインストラクター普及養成コースを受講した職員による「ハッスル!!脳トレ教室」を通年で4期開催し、認知機能の向上や脳活性化のしくみを学ぶ利用者同士の交流の場とした。
- 出張教室の依頼を受け、いきいきサロンや自治会館に指導員や看護師を派遣して介護予防体操、脳トレ体操、ボッチャ、血管や骨密度等の健康測定を実施し、地域活動の一助を担った。
- 地域交流はセンターフェスティバルを2日間に渡って開催した。作品展示と学習発表会を実施し、同好会に発表の場を設けて活動意欲の向上を促し、積極的な同好会活動につなげるように努めた。また、歌唱が解禁となったので4年振りに演芸会を実施して個人発表の場を提供した。
- 利用者交流支援として、七夕とクリスマス時期に管弦楽コンサートを開催した。その他落語観賞会や爆笑ライブビデオ鑑賞会を開催することにより施設の広報に努めた。
- 花見川団地自治会と社会福祉協議会区事務所及び千葉市あんしんケアセンター花見川が共催で行う地域カフェ「ふれあい喫茶」に会場を提供した。

さつきが丘 いきいきセンター	B	● さつきが丘公民館と連携し、近隣町内自治会14団体へ毎月のいきいきだよりを回覧し新規利用者獲得に繋げた。 ● 高齢者講演会は、歌唱系活動の実施が可能となったため人気の「歌声集会」を4回開演した。 ● 社会福祉協議会地区部会の要望から、介護予防のための健康体操を隔月実施から毎月実施へと回数を増やした。 ● 開催を見送っていた福祉まつりを再開、福祉学習会やバザー、ゲーム大会等を実施し、地域福祉の情報交換の場としてその役割を担った。 ● 社会福祉協議会地区部会からの依頼を受け、様々なケアに関わっている方の集いの場「ケアラズカフェここカフェ」に部屋を提供した。 ● 利用者交流支援として季節の移り変わりを感じられるよう、夏には七夕コンサート、冬にクリスマスコンサートを実施した。 ● いきいきセンターフェスティバルでは学習発表会や作品展示会を実施した他、近隣のさつきが丘中学校吹奏楽部や地域の落語家によるいきいき落語会を実施した。 ● 近隣老人会の西さつき会やすずらんの会より依頼を受け、出張体操及び訪問健康相談を年4回実施した。
---------------------------	-----------------	--

- 新規取組みとして、ボディケアスクールを落選された方や日時の合わない方へ、理学療法士監修のDVDによる「ミニボディケアスクール」を実施して介護予防を図るなど利用者増につなげた。
- 生きがい活動支援通所事業では、新規利用者の獲得と多くの高齢者の方への介護予防につなげるために、「生きがい活動支援通所事業体験会」で一般応募とは別に地域で高齢者と接点のある民生委員に参加・体験を行った。また、出張教室で生きがい活動支援通所事業の広報啓発を行い、新規利用者につなげた。
- 同好会の活動支援では、高齢者福祉講座終了後や同好会PR体験フェアを実施して、新規同好会の立ち上げや新規会員の加入につなげた。また、見学者やセンターフェスティバル等のイベントで積極的に活動紹介を実施して同好会活動の支援を行った。
- 利用者交流支援では、カラオケのDVDを上映して懐かしい歌謡曲を参加者が一緒に歌う機会や、アマチュアギターによる生演奏の機会を設けて利用者同士の交流を深めるとともに、利用者増につなげた。また、弦楽三重奏のコンサートでは、実施回数を増やして多くの方々に参加していただいた。
- 世代間交流では、近隣のアフタースクールやあやめ台小学校の児童（4年生・1年生）と生きがい活動支援通所事業利用者、同好会の方との交流の機会を増やした。
- いきいき体操では、前年度同様に3コースを設けて、利用者の身体機能の維持、介護予防を図った。また、定員を増やして利用者増につなげた。
- シニアリーダー体操では、参加者の身体機能の維持、介護予防を図るために毎月2回実施して利用者増につなげた。また、シニアリーダーの活動の場の確保を図った。
- 男性の利用参加の向上を図るために、男性を対象にした「男のいきいき体操」を前年度同様に実施、利用者数は微減であったが、男性の利用参加の向上を図った。また、稲毛区健康課と協働して栄養教室を実施、利用者の健康づくりを図った。
- 毎週日曜日の朝に健康づくりとして自由に参加できる「ラジオ体操」を実施して利用者増につなげた。
- 社会福祉協議会区事務所と連携して社会福祉協議会地区部会のふれあい・いきいきサロン等へ出向き、体操や健康測定、eスポーツを実施して普段、施設の利用がない地域の高齢者への健康づくりを図った。
- 広報活動では、新規利用者の確保に向けて、地域の高齢者と接点がある民生委員に毎月のセンター情報を提供するため、区内13地区の民生委員児童委員協議会に広報誌（いきいきだより）を配布して、新たな利用者確保に努めた。
- 千葉県あんしんケアセンターなど地域の関係機関との連携協力に引き続き取り組み、情報共有や事業周知に努めた。

大宮 いきいきセンター	B	●地域への宣伝として、広報紙いきいきだよりを大宮台近隣町内自治会回覧板へ毎月配布するとともに、近隣地域へ事業案内のポスティングを始めた。 ●いきいきサロンや町内自治会に対し、出張体操の他に出張体験・交流として、ボッチャ交流会を行った。 ●世代間交流として、大宮保育所園児との折り紙交流、大宮小学校児童とのボッチャ交流、大宮小学校アフタースクールとのレクリエーション交流会を行った。 ●大宮小学校評議員会の一員として、大宮台保育所、大宮公民館、町内自治会長等とともに、学校と地域の連携に関する情報交換を行った。 ●関係機関との連携の一環として、若葉区圏域あんしんケアセンター、若葉区保健福祉センター、社会福祉協議会区事務所等、地域の高齢者支援に関わる機関との定例地域ケア会議に参加し、高齢者支援に関する事例検討や情報共有を行った。 ●あんしんケアセンター大宮台及び地域町内自治会3団体参加の下、情報交換会を開催し、各団体の現状や課題などを共有した。また、あんしんケアセンター大宮台との共催事業として「あんしんいきいき測定会」を開催した。 ●若葉区健康課が推し進めるラジオ体操推進プロジェクトの普及活動へ協力した。また、「フレイル健康教育」を共催し、生きがい活動支援通所事業利用者に対してフレイルに関する講話を行った。 ●社会福祉協議会区事務所と連携の上、社会福祉協議会地区部会従事者研修（健康維持講座）を共催した。 ●「自身の体をよく知ろう」をスローガンとして、月ごとに「脳年齢週間」「血管年齢週間」と銘打ち、交互に測定を行った。定期的な測定により前回からの数値改善を意識することで、生活習慣の見直しにつながった。 ●eスポーツ普及活動への取り組みとして、健康ゲーム指導士養成講座を受講し、eスポーツ体験講座の講師・運営を行った。
------------------------	-----------------	---

都賀 いきいきセンター	C	● 高齢者講演会は、利用者の要望「スマートフォンの操作」や「声を出して歌いたい・笑いたい」を積極的に取り入れ、追加実施した。 ● 都賀いきいきセンターフェスティバルは、生きがい活動支援通所事業の作品展示・見学会、学習発表会、高齢者講演会、千葉市あんしんケアセンター出張相談、世代間交流（折り紙体験会）と様々なイベントを行った。 ● 関係機関との連携の一環として、若葉区圏域あんしんケアセンター、若葉区保健福祉センター、<u>社会福祉協議会</u>区事務所等、地域の高齢者支援に関わる機関との定例地域ケア会議に参加し、高齢者支援に関する事例検討や情報共有を行った。 ● 利用者交流支援として、「サックス演奏会」を行い、音楽鑑賞を通した利用者交流の機会を設けた。 ● 出張体操は看護師も同行し、介護予防につながる様々な体操の他、健康相談も行った。 ● 若葉区健康課が推し進めるラジオ体操推進プロジェクトの普及活動へ協力し、「若葉区はラジオ体操区！」のスローガンの下、センター利用者の健康づくりの場を支援した。 ● 利用者の介護予防への意識の高まりを受け、仲間づくりにもつながる「都賀いきいき自主体操」を毎月２回定例化して行った。 ● 「千葉東警察署と若葉区の介護サービス事業者等との情報交換会」に参加し、高齢者の安全を守るための方策について学んだ。
------------------------	----------	---

越智 いきいきセンター	C	●いきいきセンターフェスティバルは作品展示と、隣接の公民館からもフラダンスサークルに参加いただき学習発表会を行った。 ●介護予防や体操、歌唱等の講演会をシリーズ開催も含め15回実施した。 ●利用者交流支援として越智公民館と協働開催した寄席は、当日参加出来なかった方のために映像上映も行った。プレ60歳も含めた地域の方々に向けて「ラテアートを楽しむ」機会を設けた。コーヒーという共通事項を通して世代を超えた交流を楽しむことができた。 ●世代間交流は「バルーンアート」と千葉南警察の協力を得て「鑑識体験」を開催した。越智小学校へのチラシ配布を行い、小学生とその保護者に参加いただいた。 ●見守りネットワーク会議土気に参加し、関係機関や民生委員と情報交換や共有をして協力体制の強化に努めた。 ●センター前の広場を活用して、生きがい活動支援通所事業時にグランドゴルフを実施した。 ●地域の健康拠点になれるよう、プレ60歳も対象にした骨密度測定や健康相談を行うイベントを年に3回開催した。また、日曜日と月曜日の朝にラジオ体操を開催し定期的な来館と健康増進を促した。
土気 いきいきセンター	C	●いきいきセンターフェスティバルでは同館2階の地域活動支援センターと連携して合同作品展示会を開催した。学習発表会では今年度登録した新規同好会3団体の発表と合わせて市内で活動しているハーブの演奏団体のコンサートを実施した。 ●体操等の介護予防、座学、創作等の講演会を計15回実施した。 ●土気小学校1年生との世代間交流「昔の遊び」を、学校で行った。高齢者が指導役となり、いろいろな遊びを通して交流した。 ●見守りネットワーク会議土気に積極的に参加し、関係機関や民生委員と情報交換や共有をして、協力体制の強化に努めた。千葉市あんしんケアセンターや社会福祉協議会地区部会と協働でふれあい・いきいきサロンや認知症カフェに出向き、測定会や体操等を行った。また土気公民館との共催事業を実施した。 ●プレ60歳、60歳代への第二の人生提案や計画の提供、新たな趣味を模索できる講座等の開催として、教養系講座やシルバー人材センター入会説明会を実施した。また年齢制限を設けない健康測定会を開催し、プレ60歳へ向けて施設の周知を行った。 ●土気小学校、土気公民館、土気市民センターと協働して、九都県市合同防災訓練に参加した。 ●千葉統一地方選挙での期日前投票、当日投票の会場として集会室及びロビーの貸し出しを行った。

真砂 いきいきセンター	C	● ボディケアスクールやいきいき体操の落選者や新規利用者に対して運動の機会を提供するため、ミニボディケアスクールやシニアリーダー体操を開始した。 ● 世代間交流事業は、小学校への配布チラシのデザインを改良し、書き初め教室の参加人数を増加させた。 ● 講演会のほか、e スポーツを生きがい活動に取り入れ、新たな楽しみを利用者に提供した。 ● 真砂・磯辺地区を中心に出張体操の新規団体を増加させた。 ● UR 真砂第二団地への体験会を千葉市あんしんケアセンター真砂と共に開催し、いきいきセンターを周知した。 ● ロビーの同好会一覧の掲示を一新し、活動内容ごとの色分けや、募集情報を視覚的に分かりやすくした。 ● 高齢者福祉講座の修了者により発足された「K B E 真砂サークル」他 1 団体が増加した。 ● 真砂いきいきセンターフェスティバルは、広報を真砂地区全域にポスティング配布を行い、プレ60歳の方や初めての方を集客した。 ● 千葉市立高等特別支援学校のビルクリーニング班で就労を目指す生徒に対し、窓清掃の作業学習を通して働く力を育成する場を提供するとともに、センターを利用する高齢者との交流を図った。
------------------------	----------	--

(2) 市による評価
ア 全体

総括 評価	C	所見	概ね市の求める水準に則した、良好な管理運営が行われている。 ● 利用者アンケートによる満足度は市の定める数値目標を上回った。 ● 管理運営の履行状況は、eスポーツ事業に向け健康ゲーム指導士資格を取得するなど能力向上に努めており、また高齢者福祉講座（スマホ教室や脳トレ等）や高齢者講演会（体操やSDG s 等）などの各種事業を市の定める実施回数以上実施するなど、市の定める水準を上回る管理運営が行われた。
----------	---	----	---

	利用者数	満足度	管理運営の履行状況								管理 経費 削減	総合	A又はB の割合	D又はE の割合
			1 市民の平等 利用の確保・施設の 適正管理	2 施設管理能 力(1)	2 施設管理能 力(2)	3 施設の効用 の発揮(1)	3 施設の効用 の発揮(2)	3 施設の効用 の発揮(3)	4 その他					
市による評価	D	C	C	B	C	B	C	B	C	C	C	30%	10%	
中央いきいきプラザ	D	C	C	B	C	C	C	B	C	-	C	22%	11%	
花見川いきいきプラザ	D	C	C	B	C	B	C	B	C	-	C	33%	11%	
稲毛いきいきプラザ	C	C	C	C	C	C	C	B	C	-	C	11%	0%	
若葉いきいきプラザ	D	C	C	C	C	C	C	C	C	-	C	0%	11%	
緑いきいきプラザ	D	B	C	B	C	B	C	B	C	-	C	44%	11%	
美浜いきいきプラザ	D	C	C	B	C	B	C	B	C	-	C	33%	11%	
蘇我いきいきセンター	C	C	C	C	C	B	C	B	C	-	B	22%	0%	
花見川いきいきセンター	D	C	C	C	C	B	C	B	C	-	C	22%	11%	
さつきが丘いきいきセンター	C	B	C	C	C	B	C	B	C	-	B	33%	0%	
あやめ台いきいきセンター	B	B	C	C	C	B	C	B	C	-	B	44%	0%	
大宮いきいきセンター	A	B	C	B	C	B	C	B	C	-	A	56%	0%	
都賀いきいきセンター	D	C	C	C	C	B	C	B	C	-	C	22%	11%	
越智いきいきセンター	C	B	C	C	C	B	C	B	C	-	B	33%	0%	
土気いきいきセンター	D	B	C	B	C	B	C	B	C	-	C	44%	11%	
真砂いきいきセンター	D	C	C	C	C	B	C	C	C	-	C	11%	11%	

施設名	総括評価	所見
全施設共通	-	● 施設間で貸し出し可能な備品のリストを作成している。 ● 緊急の際に病院等に提出する個人情報使用同意を取っている。 ● 1日4回巡回し、チェックシートを作成している。 ● ご意見箱を設置したり事業ごとにアンケートを実施したりするなど、利用者の意見を広く募っている。 ● 理学療法士による個別相談を実施している。 ● 所定労働時間の合計において30 分未満の端数が生じた場合に切捨てを行っ
中央 いきいきプラザ	C	● 職員全員が普通救命講習を受講している。 ● オンラインで健康ゲーム指導士資格を取得している。 ● 松ヶ丘公民館から中央区内の公民館に秋祭りやいきいきプラザフェスティバルのチラシを配架してもらっている。 ● 第二水曜に円卓会議に出席しイベント広報、いきいきだより・チラシを回覧板で配布、ゼンリンに秋祭りの折り込みチラシ入れるなど、広報に努めている。 ● 利用者に積極的に声かけを実施し、健康相談の件数が他施設よりも多い。 ● 高齢者講演会を通年で10回開催しており、管理運営の基準（年2回以上）を上回る。 ● 講座から3団体同好会を立ち上げるなど、希望者のコーディネートを行い、参加を支援している。 ● あんしんケアセンターと連携し、出張体操、いきいき体操を実施。 ● 中央区健康課とアリオで健康測定会、100歳体操で連携。 ● ボランティア同好会が地域カフェを実施。

花見川 いきいきプラザ	C	●職員全員が普通救命講習を受講している。 ●またオンラインで健康ゲーム指導士資格を取得している。 ●他施設よりX（Twitter）への投稿が多く、フォロワーも多い。 ●ボディケアの公式LINEを運用している。 ●有料老人ホーム、グループホーム、民児協でパンフレット等を配布している。 ●高齢者福祉講座を通年で29講座実施しており、管理運営の基準（年間20講座以上）を上回る。 ●後期でも1団体新規立ち上げるなど、希望者のコーディネートを行い参加を支援している。 ●前期に世代間交流を2回、地域交流を2回、後期にもクリスマスイベント、フェスティバルを開催しており、管理運営の基準（各年1回以上）を上回る。 ●自治会や有料老人ホームに59回出張教室を実施しており、出張教室利用者が他施設より多い。 ●あんしんケアセンターとの出張相談会、健康測定を実施するなど、地域の実情に合わせた事業を実施している。
稲毛 いきいきプラザ	C	●職員全員が普通救命講習を受講している。 ●いきいきだよりを自治会50カ所、あんしんケアセンター、稲毛区域の公共施設ほぼ全て、中央図書館、その他連携施設に配布するなど広報に努めている。 ●高齢者福祉講座を通年で30講座、短期講座も4回実施しており、管理運営の基準（年間20講座以上）を上回る。 ●高齢者講演会を通年で24回開催しており、管理運営の基準を（年2回以上）上回る。 ●休日開催も多い。 ●麻雀、ジャズ体操教室など講座から立ち上げ、次年度から4団体立ち上げ予定など活動を支援している。 ●ゲートボール場を卓球やボッチャ、毎朝のラジオ体操、いきいきフェスティバル、ゲートボール体験会など広く活用に努め、他施設より利用者数が多い。 ●あんしんケアセンター、公民館と出張健康測定会、認知症サポーター養成講座などで連携。 ●健康課とフレイル予防健康測定会を実施。地域活性会議（不定期）参加。 ●社協地区部会、地域ケア会議に参加するなど連携に努めている。 ●自主事業としてボランティア養成講座を実施し、近隣保育園児を招き読み聞かせの会を実施。 ●月1回地域カフェスペースとして、シニアリーダーによるボランティアの歌声ひろばを開催し、利用者と声出しの場を作っている。

若葉 いきいきプラザ	C	●職員全員が普通救命講習を受講している。 ●いきいきプラザフェスティバルの記事をびびなびに掲載。 ●公民館、あんしんケアセンター、社会福祉協議会、生活自立・仕事相談センターにチラシを投函するなど広報に努めている。 ●高齢者講演会を通年で14回開催しており、管理運営の基準（年2回以上）を上回る。 ●講座終了後に希望者のコーディネートを行い、既存同好会への参加を支援している。 ●同好会一覧を作成し、チラシと一緒に公民館等に配布している。 ●地域ケア会議に毎月参加。民生委員会の理事会・あんしんケア会議でも配布。 ●地域健康づくり支援連絡会に参加し、介護予防体操で連携。 ●あんしんケアセンター千城台の認知症カフェにも参加している。
緑 いきいきプラザ	C	●職員全員が普通救命講習を受講している。 ●またオンラインで健康ゲーム指導士資格を取得。 ●鎌取イオン、ヤオコーおゆみ野店、カスミ等にいきいきプラザのパンフレットを配架。 ●ヤオコー学園前店では掲示してもらっている。 ●読売新聞折込で行事をお知らせするなど、広報に努めている。 ●高齢者福祉講座を通年で29講座を実施しており、管理運営の基準（年間20講座以上）を上回る。 ●同好会一覧を作成し、パンフレット共に近隣施設に配架している。 ●また館内に作品を展示し、同好会参加者を募っている。 ●あんしんケアセンターと共同で出張健康相談、健康課とハッピー健康相談を実施。 ●生活自立仕事相談支援センターと障害者基幹相談センターで相談会を共催するなど連携に努めている。

美浜 いきいきプラザ	C	●職員全員が普通救命講習を受講している。 ●ラジオ体操指導士、オンラインで健康ゲーム指導士資格を取得。 ●高洲・高浜自治会の回覧板にいきいきだよりを載せてもらっている。 ●自治会のないURなどにはポスティングを行っている。 ●民生員・児童員の協議会に出席し、パンフレット・いきいきだよりを配布している。 ●地域多世代交流イベントを地域新聞に掲載するなど広報に努めている。 ●近隣への広報に努め認知度を向上させることにより、他施設よりも利用者が多い。 ●高齢者福祉講座を通年で19講座と短期講座（eスポーツ・コグニサイズ等）5回実施しており、管理運営の基準（年間20講座以上）を上回る。 ●高齢者講演会を通年で23回実施しており、管理運営の基準（年2回以上）を上回る。 ●土日開催も多い。 ●通年で5つ同好会立ち上げ、内3つが講座からの派生であり希望者のコーディネートを行い、活動を支援している。 ●世代間交流として書初め、地域交流としてフェスティバルを実施。 ●文化振興財団のアーティストバンクからアイドルを呼び多くの男性を集めた。 ●高洲・高浜地区部会と健康フェスティバルを実施。 ●NPO法人Q-miiに地域カフェスペースの提供。 ●UR高洲と毎週ラジオ体操を開催し、いきいきだよりのポスティング協力してい
蘇我 いきいきセンター	B	●職員全員が普通救命講習を受講している。 ●自治会・民生委員会議で広報を実施。 ●コミュニティセンターにも配布するなど広報に努めている。 ●高齢者講演会を通年で16回実施しており、管理運営の基準（年2回以上）を上回る。 ●希望者のコーディネートを行い、参加を支援している。 ●七夕、盆踊り、マジックショー、フェスティバル等をこどもルーム、子育てリラックス館などと連携して実施しており、他施設よりも世代間交流の参加者が多い。 ●健康課と100歳体操や出張健康イベントを実施。 ●コミュニティセンターと施設利用促進ディスカッションを開催するなど連携に努めている。

花見川 いきいきセンター	C	●職員全員が普通救命講習を受講している。 ●自治会、商店街にポスター掲示。 ●自治会の広報誌、びびなび（街の情報生活サイト）に掲載してもらうなど広報に努めている。 ●高齢者講演会を通年で15回実施しており、管理運営の基準（年2回以上）を上回る。 ●希望者のコーディネートを行い、今年度新規に3団体立ち上がるなど活動を支援している。 ●あんしんケアセンターと健康フェスティバル、自治会広報誌に情報掲載・ポスター掲示、健康課に講演会講師・ヘルスサポーター養成講座の会場を提供するなど連携に努めている。
さつきが丘 いきいきセンター	B	●職員全員が普通救命講習を受講している。 ●公民館と連携し、自治会へ回覧を依頼することで、新規利用者を増加させている。 ●高齢者講演会を通年で10回実施しており、管理運営の基準（年2回以上）を上回る。 ●希望者のコーディネートを行い、参加を支援している。 ●さつきが丘東小学校と広報協力で連携。 ●社協の地区部会との体操の実施、広報で協力するなど、近隣施設と多様に連携している。

あやめ台 いきいきセンター	B	●職員全員が普通救命講習を受講している。 ●いきいきだよりを自治会とあんしんケアセンター、稲毛区域の公共施設ほぼ全てに配布するなど、広報に努めている。 ●高齢者講演会を通年で31回実施しており、管理運営の基準（年2回以上）を上回る。 ●利用者交流からボッチャの同好会を立ち上げ。 ●講座から既存同好会へ参加を支援。 ●人数が減少している既存同好会を対象に体験フェアを開催するなど活動を支援している。 ●地域交流（フェスティバル）を開催、世代間交流（夏休みにいきいきタイムを設定しアフタースクールとの相互交流を開始、輪投げ・ボッチャ・FreePlayなど）するなど、学校、地域との交流を深めており、他施設よりも世代間交流の回数が多い。 ●あんしんケアセンターと出張体操、測定会を実施。 ●健康課と健口教室、食事セミナーを実施。地域包括ケア推進課と認知症情報コーナー「オレンジナビ」を設置。 ●あやめ台小学校の1年・4年生にいきいきセンターの授業を実施するなど多方面と連携を密にしている。
大宮 いきいきセンター	A	●職員全員が普通救命講習を受講している。 ●またオンラインで健康ゲーム指導士資格を取得。 ●地域新聞に骨密度測定会・センターフェスティバルを掲載。 ●いきいきだよりを大宮自治会、北大宮自治会に届けている。 ●あんしんケアセンターにチラシを配布するなど広報に努めている。 ●高齢者講演会を通年で9回実施しており、管理運営の基準（年2回以上）を上回る。 ●希望者のコーディネートを行い、参加を支援している。 ●アフタースクールや保育園と交流会を実施。 ●あんしんケアセンターと年一で会議。 ●あんしんケアセンターと連携し測定会や講座を実施している。 ●健康課の講座もセンターで開催するなど多方面で連携に努めている。

都賀 いきいきセンター	C	●職員全員が普通救命講習を受講している。 ●地域新聞にコミュニティ祭りと一緒に健康チェックの記事を掲載。 ●コミュニティセンターにも掲示してもらっている。 ●自治会への出張時にも広報している。 ●高齢者講演会を通年で13回実施しており、管理運営の基準（年2回以上）を上回る。 ●オカリナの講座から同好会を立ち上げるなど、希望者のコーディネートを行い、参加を支援している。 ●近隣自治会等への広報により、他施設よりも生きがい活動支援通所事業の利用者が多い。 ●コミュニティセンターのイベントと合わせて健康チェックを実施。 ●あんしんケアセンターの出張相談会を実施。 ●地域ケア会議にも毎月参加するなど連携に努めている。
越智 いきいきセンター	B	●職員全員が普通救命講習を受講している。 ●各月のイベントをチラシにして利用者に配布。 ●公民館の自治会ボックスを利用し配布するとともにあんしんケアセンターにも周知している。 ●はなみずき台自治会の広報誌に行事を掲載してもらっている。 ●高齢者講演会を通年で15回実施しており、管理運営の基準（年2回以上）を上回る。 ●希望者のコーディネートを行い、参加を支援している。 ●あんしんケアセンターと見守り会議や出張体操で連携。 ●公民館のサークルの食事会に出向き健康測定会を実施。 ●世代間交流で南警察署と鑑識体験を実施。 ●健康課とも食事セミナーや相談会を実施するなど連携に努めている。

土気 いきいきセンター	C	●職員全員が普通救命講習を受講している。 ●またオンラインで健康ゲーム指導士資格を取得。 ●いきいきセンターだよりを土気中学校区の自治会に毎月200部配布し、回覧板に挟んでもらっている。 ●公民館、あんしんケア、土気あすみが丘プラザにも配布し広報に努めている。 ●高齢者講演会を通年で13回実施しており、管理運営の基準（年2回以上）を上回る。 ●希望者のコーディネートを行い、参加を支援している。 ●健康課と食事セミナー、公民館と落語会を共催。 ●土気小学校と毎年世代間交流、あんしんケアセンターと認知症カフェへ出張。 ●シルバー人材センターの出張相談会を実施するなど連携に努めている。
真砂 いきいきセンター	C	●職員全員が普通救命講習を受講している。 ●UR真砂の掲示板にいきいきだよりを掲載、フェスティバルのチラシをゼンリンで65歳以上に配布するなど、広報に努めている。 ●高齢者講演会を通年で15回実施しており、管理運営の基準（年2回以上）を上回る。 ●希望者のコーディネートを行い、参加を支援している。 ●打瀬の地区部会と健康フェスティバルを実施。 ●あんしん磯部と脳年齢測定、美浜脳トレサークルと測定、美浜友好会と骨密度測定を実施。 ●磯辺7丁目東自治会と出張体操。 ●真砂第一町内で出張体操を実施。 ●磯辺63自治会館で敬老会を実施。 ●毎週木曜日に真砂団地で出張でラジオ体操を実施。 ●あんしん真砂とUR真砂と周知イベントを第二団地集会所で実施。 ●世代間交流のチラシを小学校で配布するなど連携に努めている。

【評価の内容】

- A：市が指定管理者に求める水準等を大きく上回る、特に優れた管理運営が行われていた。
 B：市が指定管理者に求める水準等を上回る、優れた管理運営が行われていた。
 C：概ね市が指定管理者に求める水準等に則した、良好な管理運営が行われていた。
 D：管理運営の一部において市が指定管理者に求める水準等に達しておらず、改善の余地のある管理運営が行われていた。
 E：管理運営全般において市が指定管理者に求める水準等に達しておらず、速やかな改善が求められる管理運営が行われていた。

(3) 保健福祉局指定管理者選定評価委員会の意見

- ・財務状況については、提出された財務分析シートを確認した範囲では、倒産や撤退等のリスクは認められず、特段の問題はないと認められる。
- ・これまでの部会の意見が反映され、職員の皆様の取組がきちんと評価できているアンケートの実施や、認知症の当事者へのアプローチ等の取組が非常に向上しており、評価できる。
- ・管理運営については、概ね適切に管理が行われていると認められるが、次の事項に留意されたい。
 - ①フリーWi-Fiの設置や、プラザ・センターまでのアクセスの問題について利便性の確保をご検討いただきたい。
 - ②評価資料中のアンケート結果について、施設ごとの回答者数わかるように工夫していただきたい。
 - ③地域へ出張サービスを増やしていくにあたり、活動場所や形態について、あらためてご検討いただきたい。